

森林学会における防災研究

学会の目的

日本森林学会は、森林学と林業に関する研究成果の公表、知識の交換、国内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、森林学の進歩と普及を図り、学術の振興と社会の発展に寄与・貢献することを目的としています。

(日本森林学会HPより)

学会内の主要研究分野 (2018年高知大会の部門リストより)

林政 風致 教育 経営 利用

造林 生理 遺伝・育種 植物生態 立地 防災

動物・昆虫 微生物 特用林産

学会内の防災関連研究の状況

防災分野

- ・ 土砂災害・水害
- ・ 気象災害 (風害、雪害、山火事)
- ・ 防災林 (強風・雪崩防護、津波被害の低減)

砂防学会、地すべり学会
水文分野の学会と会員が
重複

境界領域型テーマ (学会内の多分野に関わる)

- ・ 放射性物質の森林・林業への影響
- ・ 流木問題の浮上 (林業と防災の境界)

Eco-DRRの視点から森林の防災機能を再評価する議論が国内外で活発化



津波と海岸林



放射性セシウムの動態研究



流木の発生